

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

ふるさと 郷土の思い願いを質問

会派を代表し、道政課題全般について質問

第2回定例道政会議で北口道議は、会派を代表しての代表格質問を行いました。

質問項目としては、知事の政治姿勢や財政運営、地方分権・地域主権、エネルギー・原発政策、第一次産業の振興、経済・雇用対策、



会派を代表しての質問(6月20日)

医療・福祉対策、交通ネットワーク、道立総合研究機構、教育課題などについて、地域の思いや願いを質問しました。

再稼働も国まかせ

北口道議の代表格質問での質問時間は40分、再質問は20分、再々質問は10分、さらに特別発言も行い、約3時間近くにわたり、高橋知事と丁々発止を行いました。知事からは「国に求める」や「今後検討する」などの答弁に終始し、不誠実な対応でした。

一方、人口減少問題では、「客観的指標である道独自の市町村別将来人口調査を実施すべき」との問いには、知事をトップとする対策本部を設置し、年度内に総合的な指針を作成する」との答弁を得

ました。しかし、泊原発再稼働問題では、「国に求めた2点(浜岡原発との違いと地震が福島原発に与えた影響)は新規基準に盛り込まれている」とし、「再稼働は国が判断すべきもの」との答弁に終始し、再稼働の是非も国が判断すべきとの認識でありました。

なお、質問と知事答弁の主なものは次のとおり。
問 福島原発事故をどのように教訓として捉えているのか。

答 総合的なリスク評価や対策が欠如していた。安全の追求に終わりはなく、不断の取組が重要。

問 泊原発で、福島原発と同程度の事故が起きた場合、その影響をどのように想定しているか。

答 原発事故は、住民生活はもとより社会経済に大きな影響がある。

問 原子力発電のコストへの認識は。

答 資本金費、運転維持費に加え、掛かる電源コスト

の全ては国民に明らかにされるべき。

問 離島をモデルにした工コアイランド構想(エネルギー・地産地消)の進捗状況は。

答 道立高校や公共施設に太陽光発電を導入するなど、今後も新工ネを導入していく。

問 幌延問題で、最終処分地の選定方式の方針変更に対する見解は。

答 国において、安全性を最優先に具体的な道筋を示し、徹底した情報開示に努めるべき。

問 規制改革会議の内容をどう認識し、北海道農業をどう強化するのか。

答 農協の機能強化は必要。効率的で生産性が高く、付加価値を向上する農業を推進する。

問 地方路線バスの堅持や鉄道維持に向けた考え。

答 人口減少・高齢化が進む中、公共交通機関の役割は重要。地域の足を維持・確保する。

第二回定例道議会報告(6月17日~7月4日)

第2回定例道議会は、6月17日(火)に開会し、平成26年度北海道補正予算や「地方財政の充実・強化を求め意見書」、「JR北海道及びJR貨物の安全対策強化と安全運行を求め意見書」などを可決し、7月4日(金)に閉会しました。

暴走する安倍政権

国政では、安倍政権の暴走が、特定秘密保護法の強行に続き、憲法解釈の変更による集団的自衛権行使容認と続いています。

加えて、医療介護推進法の強行、労働規制緩和、農政見直しなど、国民生活や地域のあり方を根底から変えるような施策が十分な議論もないまま推し進められているのです。

国まかせの知事姿勢

民主党・道民連合議員会
会派としては、こうした国

の動向に対して、知事が道民・地域の声を取りまとめ、国にも申すよう求めている論議を展開しましたが、「知事は国に従う」との基本姿勢を崩さず、山積する課題に真剣に対応していく姿を見せませんでした。本道にとって極めて大きな課題である、TPP交渉や原発政策についても、「国の判断待ち、指示待ち」との答弁を

繰り返すばかりでした。

また、自民党が検討する「道州制推進基本法案」に対して、多くの自治体から懸念、反発が出ているにもかかわらず、知事が法案推進の立場を鮮明にしている

「知事・市長連合」に参加していることについて、「国民的な議論を喚起するために参加している」と述べ、さらに、函館市の大間原発訴訟で意見陳述を求められた場合の対応については、「仮定の話にはお答えできない」と答弁するなど、議会論議に対して不誠実な対応も相次ぎました。

採択された決議・意見書

◆朝鮮民主主義人民共和国のミサイル発射に抗議する決議 ●地方財政の充実・強化を求める意見書 ●JR北海道及びJR貨物の安全対策強化と安全運行を求め意見書 ●平成26年度北海道最低賃金改定等に関する意見書 ●地域包括ケアシステム構築のため地域の実情に

高橋知事 11年間の道政を検証!

民主党・道民連合議員会

この11年間は、政治・経済状況が大きく激変した時代だった。それはまた北海道のトップリーダーである知事の手腕が大きく問われ、試される時期でもあったが、高橋知事はそれを乗り越えてきたのだろうか、いや否である。

毎年の道政執行方針は絵花的な内容に終始し、予算編成においても同様に重点的な施策が見えず、小粒な成果しか得られていないという現実の前では、知事が言う「種をまき、大事に育て、花が咲き、収穫の時を迎えた」との感想が意味を持たないことは、巷間言われる「北海道は何も変わっていない」という評価に端的に表れている。

道民の暮らしや所得は下がり、雇用は停滞したまま経済は右肩下がり、行財政改革の失敗から道債は増え続け、地域医療も疲弊、一次産業も担い手不足が回復せず、人・もの・金(資金)は都会に集中し、地方との格差は広がるばかりだ。厳しい時こそ地域との連携によって北海道全体の力を結集することが不可欠であるにもかかわらず、支庁制度改革の取り組みに見られるように、連携は口先、小手先の対応で、地域を大事にする成果は一向にあがっていない。

高橋道政3期の成果は何だったのだろうか。

それは、知事を支え続けた自民党や経済界からもため息が漏れるほど期待はずれだっただけでなく、町村会や各地域の首長からもあきらめの声が聞こえ、マスコミでも「何もしなかったから失政もない」と論評されるものだ。

私たちは、議会議論を通じて道政をチェックし、その運営に苦言を呈しつつ、時には政策提言し、議員提案条例も他府県にないほど作り上げてきたが、知事には、議会に対応する積極性、主体性の片鱗もなく、惰性の道政運営を続けてきたと指摘しても過言ではない。

今や、道職員はこのような知事の下で、公務員としての本来の使命を押し隠し、道民のためではなく、知事のために仕事をしているに等しい状況になっている。

何もしない、何も変わらない、自ら発信することなく、常に国頼みの姿勢に終始し、11年間を無為に浪費し、道民を欺いてきた罪は非常に大きい。

したがって、高橋知事の道政運営は、そのほとんどが評価に値しないものであると断じざるを得ない。

応じた支援を求める意見書 ●新たな難病対策及び小児慢性特定疾病対策の円滑な施行を求める意見書 ●精神障がい者を含めた重度心身障がい者(児)医療費の公費負担制度の創設を求める意見書 ●衆議院小選挙区の区割りの見直しを求める意見書 ●軽油引取税の課税免除措置の継続を求める意見書 ●歯科技工士国家試験全国統一化に当たり北海道に試験地を設けることを求める意見書 ●義務教育の機会均等の確保と教育予算の確保 ●拡充を求める意見書 ●炭鉱技術海外移転事業の推進に関する意見書 ●道路の整備に関する意見書 ●林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

※会派としては、「憲法解釈の変更による集団的自衛権行使容認を行わないことを求める意見書」、「特定秘密保護法の廃止を求める意見書」を提出しましたが、自民・公明両会派が反対し、否決されました。

写真で振り返る北口道議の活動記録(4月〜6月)



国会前の TPP 交渉反対座り込みに激励(4月23日)



士別市甜菜振興会定期総会で挨拶(4月4日)



市民参加の羊と雲の丘の牧柵修理(4月27日)



士別市文化協会定期総会で挨拶(4月25日)



退職者会 20周年記念で団結ガンパロー(5月15日)



綺麗になった屯田兵屋で記念撮影(5月2日)



国営農地再編整備事業の要請(6月25日)



直播ビートなどを作況調査(6月14日)



自治体議員フォーラム懇談会を設立(5月17日) ←ロボットトラクター実証試験(5月22日)



北口ゆうこう奮闘日記

<http://y-kiaguchinet/>

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(4月～6月分)

◆4月17日「ガーデンショー2015大雪実行委員会」

▼北海道ガーデンショーは、2012年帯広の十勝千年の森にて第1回が開催され、通算で20万人の来客があり、多くの経済効果もあったとのことだ。そこで、来年に向け、上川町が中心となつて、「北海道ガーデンショー2015大雪」を開催することとしている▼来年の



恒例となっている新春街宣活動

ーテンショーでは、神々の遊ぶ庭『カムイミントラ』(大雪山国立公園)、大雪森のガーデン(上川町)、上野ファーム(旭川市)を結び、来年6月から10月の日程で約25万人の集客を予定している▼今日の実行委員会には、地元の上川町内の各関係者はもとより、国や道の出先機関の職員も集まり、佐藤町長は、「小さなマチの大きな挑戦だ。この動きを全道に広げ、オール北海道の取り組みとしたい」と、その決意を語られた。

◆5月2日「屯田兵屋の清掃作業」

▼土別市は、明治32年7月、最後の屯田入植によって開拓された。保存されている屯田兵屋は、川津万次郎氏宅(兵屋番号67番)で、昭和44年、九十九山の土別神社境内に復元し、その後博物館横の現在地に移転した。内部には当時のタンスや戸棚、官給品の自在鉤や鉄瓶、農機具などの展示をしている。屋根の煙出しや無双窓などが特徴だが、



綺麗になった「屯田兵屋」で記念撮影

酷寒の冬季をしのぐには余りにも粗末な造りで、開拓期の苦勞を物語っている▼土別市郷土研究会では、雪解けを迎えたこの時期、一般開放される屯田兵屋の清掃作業を行い、多くの皆さんにその歴史を知っていただくこととしている。今日の清掃作業には、郷土研究会員と土別市教育委員会の職員で行い、この冬の汚れも綺麗になり、市民に当時の様子を伝えようとしている。一人でも多くの皆さんの来場を願っている。

◆6月8日「あいべつ校開校式」

▼北海道美深高等養護学校あいべつ校は、多様化する保護者の要望を受け、

美深高等養護学校の分校として開校。校舎は平成23年に閉校した旧愛別高等学校の校舎を活用することになった▼このあいべつ校の特徴は、道北初の通学型の特別支援学校として開校し、今年1年生として14名が入学した。また、校舎とともに、旧愛別高校の校訓である「思考・実践」を引き継ぎ、「自分らしく、よりよく生きる人を育てる」ことを学校教育目標に定めている

▼今日の開校式で生徒を代表して挨拶した女子生徒は、「新しい学校では、不安と緊張で入学したが、自分の行動に責任を持ち、努力していきたい。そして、自分



開校式で式辞を述べる佐々木校長

たちがあいべつ校の歴史を創れるよう頑張る」と決意が述べられた。その後、生徒たちによる校歌が披露され、素晴らしい開校式が終了したとことだ。

【KUSUJUN】

▼「現在、太陽光、風力、バイオマスなど、さまざまな資源のある離島をモデルとして、利用規模に合わせた最適なエネルギーの組み合わせの検討を進めているところがあります」▼これは、平成23年第3回定例会において私が質問した「Ecoアイランド構想について」の知事の答弁である▼さらに、今回の代表格質問で、その後の進捗状況について質問したところ、「住民の意識調査を行い、道立高校や公共施設に太陽光発電を導入し、これからも新エネルギーの導入に努める」との答弁であった▼約3年が経過し、具体的に再生可能エネルギーとして導入したのは太陽光発電だけ。これでは、全くやる気がないと言われても仕方がないのではないか▼こんなやる気のない知事に、また知事を任そうとする人がいることが、私には理解できない。(ゆうこう)